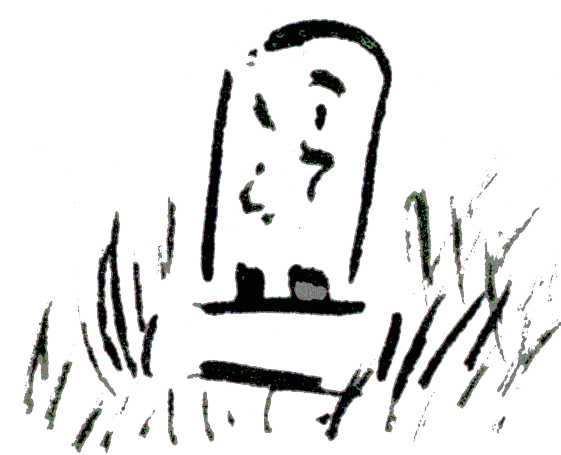


第五話

ネブカの橋



むかしむかしなあ。

お父^{どっ}つあんとお母^がつあんと娘として暮らす家あったんだと。
うんと仲よく暮らしていたけど、お母^がつあんが病気で死んだから、ごけがが（後添え）もらったつおんね。

その人にも娘いて、娘二人になったのしゃ。
そうしてるうちに、お父^{どっ}つあん、どこか遠くへ稼ぎさ行ったんだと。

そしたらね、その二番めのお母^がつあんしゃ、先妻の子につらく当たるようになったんだね。

あるとき、ザルを持たせてね、
「こいつで水汲んで、風呂桶いっぺにしろ」
って言いつけたつうの。

いくら汲んでも、ザルで水汲むつうことあっぺえちゃや。水出
てしまうべさ。それでも、いっしょけんめになって、その娘は水
汲んでね、風呂桶をいっばいにしたんだと。

そしたら、そのお母^がつあんね、こんどは、
「火、焚け」
って、どんどん火を焚かせたんだと。

こんどは、そこさネブカ（葱^{ねぎ}）たがいてきて、風呂釜に渡して
橋みだくしてや、

「こい渡れ」
って言ったんだと。

ネブカ橋なんて、渡れねえちゃ。

んでも、「渡れ。渡れ」って言われて、娘は、泣き泣きそこ
を渡って、ざんぶりと落ちて、死んでしまったんだとやあ。ああ、
かわいそうになあ。

釜で煮らって、その娘、骨になってしまったんだと、いだま
しいちゃね。

んで、わたしの子どもの頃は、便所のそばに灰小屋^{あく}あって、
そこさ灰^{あく}投げたんだおね。

んで、そのお母^がつあん、そこへ死んだ娘の骨を投げて灰かけて、
知らん顔してたんだと。

しばらくして、お父^{どっ}つあん帰ってきて、便所さ行ったつけ、
庭でウグイス鳴いたんだと。

ザルで水 千かえり（千回）

ネブカ（葱）の橋 かけて ざぶり ざぶり

それで、お母^がつあんのしたことが、みんなわかってしまって、
追^おん出されたんだとや。